

第57会

ぜんこく知的障害福祉関係職員研究大会

第1分科会「育ちを支える」

発達障害当事者から見た世界を 想像する

:「障害特性」をあきらめの理由にしないために

鹿児島大学 教育学系

肥後 祥治

あなたが、見ている(聞こえてくる)
ことは、本当に他の人も同じように
見えて(聞いて)いるのでしょうか？

ここまでで、わかること

- 同じものを見ても、同じように理解するとは限らない。
- 聞いたことを、同じようにイメージしているとは限らない

子どもと保護者・子どもと教師 のトラブルの根源は？

1. 自分(私)以外の人には、そもそも自分(私)ではないので、その人が何を考え、ものごとをどのように捉えてたり、理解したりするのは、分からない。(同じものを見たり、聞いたりしても、その人の頭の中でどのように)

子どもと保護者・子どもと教師 のトラブルの根源は？

2. しかし、相手がどのようにものを見たり、聞いたりしたのかは、分からないので、相手もつい自分と同じように見えたり、聞こえたりしていると思ってしまう。
3. したがって、耳から情報を得て色々なことに対応をする人は、人に対して耳からの情報(聴覚)を与えようとする。
4. 目から情報を得て対応をしている人は、人にも視覚を使った情報(目を通して)で、伝えようとする。

重要な問いは？

「あなたが、何かを伝えたい人は、
あなたのように、
ものごとを理解する人ですか」

子どもたちの困っていること

発達障がいの子どもが経験する
学習の場を経験してみましよう

文字は読めれば、理解できるのか？

人の見かけは、
その人の状態とは、異なることがある

まとめ1

- 子どもたちが見たり聞いたりとらえている世界は、私たちと同じではないかも知れない。
- 大人がよかれと思って伝えるアドバイスや取り組み方は、役に立たないことがある。

まとめ2

- 「人は、他人が何を考えて、何を感じて、どのように理解しているかなど、本当には理解できていない」ことを念頭に置きながらも、何とか理解しようとするのが大切。
- 「〇〇には、どのように教えればよいのか」といった問いを持って、一般論を探すだけではなく、
- この子はどのように伝えれば分かるのだろう、どのような支援や関わりがあると成功するのだろうといった問いが必要

まとめ3

- そのために本人に聞いたり、本人の気持ちや考えの状況を予測しつつ、具体的な支援の手だてを考える
- 分からないことは、本人に聞いたり、本人を観察したりしながら、確認する必要がある。
- 相互に学ぶ姿勢で取り組む。

ご成長ありがとうございました